

12月の植物（きのこ編）

ツチグリ ディプロシステイス科ツチグリ属

学名： *Astraeus hygrometricus* [non (Pers.) Morgan] sensu. auct. jap.

ツチグリ（土栗）は林内の斜面などに発生する、半地下生のきのこです。図鑑では夏から秋に発生するとありますが、佐賀県では12～2月の寒い季節に新鮮で美しい姿を観察できます。幼時は球形で地中にあり、成熟すると、丈夫な外皮が星形に裂けて広がる力で地上に現れます。

学名の和訳は「星形の湿度計」。湿っているときはミカンのように外皮が開き、外皮の上に乗っている丸い袋が雨粒に当たったり動物に踏まれたりすると、頂端の穴からもくもく煙のような胞子が噴き出します。乾燥しているときは外皮を閉じて丸くなり、風力でコロコロ転がって移動します。宇宙人のようなフォルムは、地球で仲間を増やして生き延びるための戦略…！？

多くの図鑑では「食不適」とされていますが、佐賀市北部の山間地域では「シューロ」と呼ばれ、かつては田植えどきに幼菌を採ってきて味噌汁や吸い物の実として食していたと言います。調理すると中身（丸い袋）は消えてなくなり、外皮のコリコリとした食感が楽しめます。

※野生のきのこを食す際は必ず専門家の判断のもとに行いましょう。

（写真・文：鶴田めぐみ）



▲2019年12月2日 三養基郡上峰町にて撮影

【参考】根田仁,伊沢正名『たのしい自然観察きのこ博士入門』（2006年）

貞松光男『佐賀の隠れ味 食文化を訪ねて』（2001年）